



学校支援ボランティアの告知で、見守り隊も増加。



市内 PTA 連合会では、のぼりを持って Beyond をPR!



リーダーキャンプでは、中学生が指導者の役割も担う。

(鈴木(亮)) 見守り隊などは高齢化が課題である。孫が卒業するのをきっかけに引退と言った声も聞ける。地域の方々への協力依頼は継続的に実施していきたい。

(牛澤) 保護者への周知や情報発信もまだ足りないと感じた。また、一定の成果を上げることができたと感じるだけに、今後は、市や県などのモデルケースとなれば励みにもなる。

(平(み)) 成功例として発信したいよね。

(牛澤) 市内のPTAから羨ましがられた。スキーマでは、「他の地区だけと行って良い？」と言った声もあった。今後は、「子ども達との触れ合い」がキーワードになってくるのではないかと感じる。挑戦を続けたい。

(平(直)) 地域の方々には、子ども達が活躍する姿を生で見てもらいたかった。学習発表会は、ライブ配信となったが、子ども達は、それでも地域の人達に見守っていたらいいという安心感と期待に込めようという意識の芽生えがあったと感じる。

(平(み)) 大学進学や就職を機に、地域に戻ってこないケースがあり、地域の存続が課題でもある。「致芳愛」を小学生の頃からきちんと伝えていくことが重要であると感じる。思春期の頃からは遅いような気がする。

(平(直)) 子ども達には、地域の一員なんだという意識づけが肝心。

(横澤) 小学生には、お父さんお母さんが楽しそうに活動している姿を見せることが重要ではないか。また、「小学生と中学生の交流」もキーワードに掲げたい。例えば、小学生の学習会などを企画し、中学生がミニティーチャー的な役割を担うような。中学生になると部活動などもあり、地域から離れる傾向がある。今後は、中学生の活躍の場を作ることも考えたい。

(鈴木(義)) 昔は、子ども会活動を通して縦の繋がりがあった。小中学生が集まる機会づくりが重要だと思う。また、今後は、地域に子ども達を向かせたいと考えている。例えば、高齢者宅や普段お世話

になっている方々に運動会などのチラシを配布しに行くと元気を与えるなど。地域に協力を求めるだけではなく、学校側から出向くスタイルも構築していきたい。

(平(み)) PTAの役員は、親でもあり、地域の人である。色んな立場はあるが、境界線を作らず、目的を持って、楽しく活動に取り組んで、その姿を発信するスタイルは理想の姿だと感じた。

「ポストBeyond」今後の展開は

(鈴木(義)) これからの学校は、学力向上が求められている。今、求められている学力とは、単にテストの成績が良いなどの知識的なことだけではない。「学びに向かう力」人間性も学力として掲げられる。「ふるさとをつくる人」が目指す子ども像である。勉強だけできるのでは駄目。問題を解く力だけではなく、問題を発見できる力も必要となってくる。そこで重要になってくるのが、人間力の豊かな地域の人との触れ合いや経験談を聞いたり、見せていただくこと。学校の中だけでは、これからの学力を養っていくことはできない。コミセンにも児童センターにも行かせたい。できれば、自分で出先に電話して連絡を取るところから経験させたい。

(横澤) 「コミセンにはいつでも来てほしい。スマホなどの普及によって指先の動きだけで連絡を取れる時代になり、会話するというコミュニケーション能力が薄れてきているのも課題。コミュニケーション能力は、校長先生がおっしゃる学力の最たるものではないか。

今後も地域の方々の巻き込んで事業を継続的に実施していきたい。

(牛澤) 今後は、子ども達と関わる事業を行う際は、